

研究報告

北海道・東北の男性労働者における抑うつ症状とその関連要因
—雇用形態別における検討—

The relevant factors and depressive symptoms in male workers
of Hokkaido and Tohoku
—Study in by type of employment

上原尚紘¹⁾ 蒲原龍²⁾ 志渡晃一³⁾ 西基³⁾ 三宅浩次⁴⁾

Naohiro UEHARA¹⁾ Ryu KANBARA²⁾ Koichi SHIDO³⁾ Motoi NISHI³⁾ Hirotugu MIYAKE⁴⁾

- 1) 北星病院
- 2) 道都大学社会福祉学部社会福祉学科
- 3) 北海道医療大学大学院看護福祉学研究科
- 4) 北海道産業保健推進センター

- 1) Hokusei Hospital
- 2) Dohto University of Social Services
- 3) Graduate School of Nursing & Social Services, Health Sciences University of Hokkaido
- 4) Hokkaido Occupational Health Promotion Center

要 約

本研究は、北海道及び東北の男性労働者を対象として、抑うつ症状とその関連要因を雇用形態別に明らかにすることを目的とした。正規労働者の抑うつ群の特徴として、環境や人間関係に満足しておらず、負担度は高く、ワークライフバランスは取れておらず、裁量度は低く、支援度も低く、満足度も低く、ストレス解消法が悪く、内的統制が取れていないことが明らかになった。非正規労働者では、環境に満足しておらず、負担度が高く、ワークライフバランスが取れておらず、裁量度が低く、満足度が低く、内的統制が取れていないことが明らかになった。

Abstract

The purpose of this study was to reveal to employment by the relevant factors and depressive symptoms as a target the male workers in the Tohoku and Hokkaido. As a feature of the depression group depression of full-time workers, it is not satisfied with the relationships and environment, degree of burden is high, it does not take the work-life balance, discretion is as low, support level is low, satisfaction is low, stress reduction method is poor, it does not take the internal locus of control have been revealed. In the part-time workers, it is not satisfied with the environment, degree of burden is high and does not take the work-life balance, discretion has a low degree of satisfaction is low, it does not take the internal locus of control is revealed were.

キーワード：男性労働者、抑うつ症状、正規労働者、非正規労働者

Key words: male worker, depression, full-time worker, part-time worker

I 目 的

近年、日本の労働衛生の課題としてメンタルヘルス

の重要性が増してきている。その中で、自殺との関連などから特にうつが取り上げられ、それに対する予防・

軽減策が講じられてきた。労働者の社会問題として取り上げられている中で、厚生労働省¹⁾は、自殺や抑うつによる社会的損失を推計で2兆7千億円と報告している。北海道と東北地方における産業保健推進センターは、産業保健の諸課題の中で特に「心の健康づくり」は、現場において産業医をはじめ担当者の多くが、その取り組みに困難を感じている。これまで各産業保健推進センターでは、メンタルヘルスに関する調査研究をそれぞれ独自に行ってきたが、今後活かす方策を提案するため労働者のメンタルヘルスに関わる広範な課題を諸側面から調査し、その対策を提案するために共同調査研究²⁾を行い、その報告から、抑うつ症状の多い労働者は健康、仕事、職場、家庭に関して満足の度合いが低く、生活習慣、人間関係、仕事関係にも問題があることが指摘されている。しかし、項目ごとの抑うつ症状の割合を示すにとどまり、関連を検討するには至っていない。一般労働者を対象とした三宅(2007)³⁾の調査では、抑うつの割合は約4割であり、抑うつが高い人の特徴として、年齢が若く、独身で、技術を要求されるが、裁量が少なく、上司、同僚からのサポートが得にくい、ということが明らかになっている。しかし、雇用形態別や対人援助職におけるうつに関する詳細は明らかにされていない。このような実態をうけて筆者ら⁴⁾は、北海道・東北地方における産業保健推進センター共同調査研究のデータベースを用いて男性の正規労働者を対象に検討を行った結果、抑うつ状態にある者に見られる特徴として、自己統制力が弱く、仕事職場・同僚関係・家族友人に満足しておらず、仕事質量負担度が高く、仕事の裁量度が低いことを明らかにしている。しかし、この研究では課題も残された。その一つは、非正規労働者と比較を行い相対的な特徴を明らかにすることである。矢野ら⁵⁾は、非正規雇用者を対象にした健康状態の研究が望まれる。とりわけ、実際の健康状態を把握することやストレスなどの精神的状況を把握すること、そして将来の疾病を予測するような生活習慣に関しても非正規雇用者と正規雇用者の違いを研究していく必要がある、と著書の中で述べている。

本研究では上記調査研究のデータベースを使用して、そのうち4000名以上に及ぶ男性労働者を対象に、仕事の内容、環境満足度、人間関係満足度、Locus-of-Controlの内的統制⁷⁾、ストレス解消法等と抑うつ症状の関連について男性を正規労働者・非正規労働者に別けて検討することを目的とした。

II 研究方法

1. 調査対象

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県を対象地区とし、103所の事業所に従事する男性正規労働者4375名を対象とした。調査対象の抽出法、調査票の配布、回収等の詳細については、前述の共同調査研究報告書に記載しているが、以下に簡単に内容を示す。対象者の抽出は、事業場については各センター保有の事業場名簿により各センター所管地域から160所以上の回答が得られるように抽出率を勘案して系統無作為抽出法で選出し、最終的に1614所からの回答を得た。従業員調査希望の事業場が246所と予想より多かったため、個人情報保護について厳しい条件をつけるなど、事業場側と協議して、従業員の多いところは一部の職場に限定してもらい、最終的に103所で従業員調査を行うことになった。

2. 調査内容

調査票の質問文は、The Center for Epidemiologic Studies Depression scale⁸⁾(以下CES-D)20項目、勤務条件・勤務内容21項目、健康・仕事満足度4項目、人間関係満足度4項目、家庭問題6項目、職場問題9項目、LOC4項目、ストレス解消法18項目、個人要因として性・年齢、学歴、家族形態、雇用形態、その他である。調査は、2010年11月～12月に実施された。

3. 集計方法

CES-Dの各項目は、「ほとんどなかった」、「少しはあった」、「時々あった」、「たいていそうだった」の4段階からなり、既定の採点法に従って得点を算出した。その結果、0点から60点の範囲に分布し、多くの先行研究の通りCut-off値を16点とした。ここでは15点以下を抑うつ症状の「低うつ得点」群、16点以上を「高うつ得点」群と定義した。勤務内容に関しては、①そうだ、②まあそうだ、③ややちがう、④ちがう、の4選択肢について、①②を「該当」とした。健康・仕事満足度と人間関係満足度の内容に関しては、①満足、②やや満足、③やや不満、④不満の4選択肢について、①②を「満足」とした。内的統制に関しては、①そう思う、②ややそう思う、③あまりそう思わない、④そう思わない、の4選択肢について、①②を「該当」とした。家庭問題、職場問題、ストレス解消法の内容に関しては、チェックがあれば「該当」、無記入を「非該当」とした。

4. 分析方法

分析方法は、CES-D の 2 群（「低うつ」群を 0、「高うつ」群を 1 と変数化）を目的変数とし、仕事の内容 21 項目、職場満足度 4 項目、人間関係 4 項目、内的統制 4 項目、ストレス解消法 18 項目、計 51 項目を 2 群に分け説明変数としたクロス表を作成した。単変量解析では Fisher の直接確率検定、 χ^2 乗検定を用いた。多変量解析では、抑うつ症状を目的変数、単変量解析で有意な関連が認められた項目を説明変数として、説明変数の領域ごとにロジスティックモデルを構築した。

多変量解析は、調整変数として年齢、職種、労働時間を投入し変数選択はステップワイズ法を用いた。

解析に際しては、統計解析ソフト IBM SPSS Statistics 20J for windows を使用した。

Ⅲ 倫理的配慮

精神的健康に関する調査であることから、個人情報に配慮して、以下のように取り扱った。質問票は匿名とし、さらに配布回収に当たっては、担当者が各従業員に質問票と産業保健推進センター名の封筒を渡し、回答後、封をしてから回収し、それを取りまとめて各

産業保健推進センターに送付し、センターにおいて開封した。事業場の担当者がけっして封を開けることがないように約束して調査を行った。集計後も個人データは返却せず、その事業場内の平均値や比率または他の事業場との位置づけ（偏差値）等を協力事業場に回答した。なお、この調査研究については独立行政法人労働者健康福祉機構産業保健倫理審査委員会の承認を受けている。

Ⅳ 結 果

1. 雇用形態における抑うつ症状

表 1 に雇用形態における抑うつ症状との関連を示した。高うつ得点群の割合は正規労働者で 43.5%、非正規労働者では 39.3% であった。

2. 環境満足度と抑うつ症状

表 2 に環境満足度と抑うつ症状との関連を示した。正規労働者において、低うつ得点群に比べ高うつ得点群は 4 項目全ての満足度の該当率が低かった。多変量解析では、4 項目全てが独立性の高い項目として検出された。

表 1 雇用形態における抑うつ症状の関連 N(%)

項目	正規職員 N=3925	非正規職員 N=450	有意差
高うつ得点群	1708 (43.5)	177 (39.3)	

* : $p < 0.05$ 単変量解析(Fisher の直接確率検定)

※ : CES-D 得点 : 15 点以下を抑うつ症状の「低うつ得点」群、16 点以上を「高うつ得点」群とした。

表 2 環境満足度と抑うつ症状の関連 N(%)

質問項目	正規職員				非正規職員				N(%)	
	高うつ得点群 N=1708	低うつ得点群 N=2217	有意差	合計 N=3925	高うつ得点群 N=177	低うつ得点群 N=273	有意差	合計 N=450	有意差	
a1.健康状態	748 (43.8)	1516 (68.4)	a d	2264 (57.7)	86 (48.9)	202 (74.3)	c d	288 (64.3)	e	
a2.仕事	559 (32.9)	1417 (64.3)	a d	1976 (50.7)	79 (45.4)	199 (74.5)	c d	278 (63.0)	e	
a3.職場	690 (40.6)	1499 (68.0)	a d	2189 (56.1)	94 (54.3)	204 (77.0)	c	298 (68.0)	e f	
a4.家庭	1210 (71.4)	1956 (89.0)	a d	3166 (81.4)	117 (68.0)	244 (92.4)	c d	361 (82.8)		

※CES-D 得点 : 15 点以下を抑うつ症状の「低うつ得点」群、16 点以上を「高うつ得点」群とした。

a : $p < 0.05$ 単変量解析(Fisher の直接確率検定) ; 「抑うつ低得点」VS 「抑うつ高得点」 in 正規職員

b : $p < 0.05$ 多変量解析(ロジスティックモデル) in 正規職員(年齢・職種・労働時間によって調整)

c : $p < 0.05$ 単変量解析(Fisher の直接確率検定) ; 「抑うつ低得点」VS 「抑うつ高得点」 in 非正規職員

d : $p < 0.05$ 多変量解析(ロジスティックモデル) in 非正規職員(年齢・職種・労働時間によって調整)

e : $p < 0.05$ 単変量解析(Fisher の直接確率検定) ; 「正規職員」VS 「非正規職員」

f : $p < 0.05$ 多変量解析(ロジスティックモデル) in 雇用形態(年齢・職種・労働時間によって調整)

非正規労働者では、低うつ得点群に比べて高うつ得点群は 4 項目全ての満足度の該当率が低かった。多変量解析では、「健康状態」「仕事」「家庭」の 3 項目が独立性の高い項目として検出された。

雇用形態と環境満足度の関連において、正規労働者に比べ非正規労働者は「健康状態」「仕事」「職場」の 3 項目の満足度の該当率が高かった。多変量解析では、「職場」の 1 項目が独立性の高い項目として検出された。

3. 人間関係満足度と抑うつ症状

表 3 に人間関係満足度と抑うつ症状の関連を示した。正規労働者において、低うつ得点群に比べ高うつ得点群は 4 項目全ての満足度の該当率が低かった。多変量解析では、4 項目全てが独立性の高い項目として検出された。

非正規労働者では、低うつ得点群に比べて高うつ得点群は 4 項目全てにおいて満足度の該当率が低かった。多変量解析では、「上司」「友人」「家族・親戚」の 3 項目が独立性の高い項目として検出された。

雇用形態と人間関係満足度との関連において、正規労働者に比べ非正規労働者は「上司」「同僚」「職場外友人」の 3 項目の該当率が高かった。多変量解析では、「上司」の 1 項目が独立性の高い項目として検出された。

4. 仕事の内容と抑うつ症状

表 4 に「仕事の内容」と抑うつ症状の関連を示した。正規労働者において低うつ得点群に比べ高うつ得点群では（以下低率順 3 項目のみを示す）、「現在の仕事は自分に適している」「努力に見合った評価を受けている」「現在の仕事は自分に適している」等の 12 項目の該当率が低かった。低うつ得点群に比べて高うつ得点

群の該当率は（以下高率順 3 項目のみを示す）、「仕事の量がとても多い」「次の日まで疲れが残る」「勤務時間中はいつも仕事のことを考える」等の 8 項目の該当率が高かった。多変量解析では、負担度で 4 項目、ワークライフバランスで 1 項目、裁量度で 3 項目、支援度で 6 項目、満足度で 6 項目が独立性の高い項目として検出された。

非正規労働者では、低うつ得点群に比べて高うつ得点群は（以下低率順 3 項目のみを示す）「努力に見合った評価を受けている」「仕事の方針を決め、意見を反映できる」「現在勤めている企業の将来は明るい」等の 12 項目の該当率が低かった。低うつ得点群に比べ高うつ得点群では（以下高率順 3 項目のみを示す）「勤務中中はいつも仕事のことを考える」「次の日まで疲れが残る」「現在の務めをやめたいと思う」等の 4 項目において該当率が高かった。多変量解析では、負担度で 1 項目、ワークライフバランスで 1 項目、裁量度で 2 項目、支援度で 2 項目、満足度で 2 項目が独立性の高い項目として検出された。

雇用形態と「仕事の内容」の関連において、正規労働者に比べて非正規労働者は（以下低率順 3 項目のみを示す）「職場内での男女間に差別がある」「現在の務めをやめたいと思う」「次の日まで疲れが残る」等の 8 項目で該当率が低かった。正規労働者に比べ非正規労働者は（以下高率順 3 項目のみを示す）「仕事と仕事以外の生活をうまく両立させている」「現在の仕事は自分に適している」「からだを動かす仕事である」等の 5 項目で該当率が高かった。多変量解析では、仕事負担度で 4 項目、裁量度で 2 項目、支援度で 2 項目、満足度で 1 項目が独立性の高い項目として検出された。

表 3 人間関係満足度と抑うつ症状の関連 N(%)

質問項目	正規職員				非正規職員					
	高うつ得点群 N=1708	低うつ得点群 N=2217	有意差	合計 N=3925	高うつ得点群 N=177	低うつ得点群 N=273	有意差	合計 N=450	有意差	
b1.上司	796 (46.9)	1515 (68.7)	a b	2311 (59.2)	97 (55.4)	207 (76.1)	c d	304 (68.0)	e f	
b2.同僚	1101 (64.9)	1837 (83.5)	a b	2938 (75.4)	125 (72.3)	233 (86.0)	c	358 (80.6)	e	
b3.職場外友人	1393 (82.2)	2043 (92.9)	a b	3436 (88.2)	150 (85.7)	261 (96.3)	c d	411 (92.2)	e	
b4.家族・親戚	1356 (79.9)	2037 (92.8)	a b	3393 (87.1)	130 (74.3)	256 (94.5)	c d	386 (86.5)		

※CES-D 得点：15 点以下を抑うつ症状の「低うつ得点」群、16 点以上を「高うつ得点」群とした。

a : $p < 0.05$ 単変量解析(Fisher の直接確率検定) ; 「抑うつ低得点」VS 「抑うつ高得点」 in 正規職員

b : $p < 0.05$ 多変量解析(ロジスティックモデル)in 正規職員(年齢・職種・労働時間によって調整)

c : $p < 0.05$ 単変量解析(Fisher の直接確率検定) ; 「抑うつ低得点」VS 「抑うつ高得点」 in 非正規職員

d : $p < 0.05$ 多変量解析(ロジスティックモデル)in 非正規職員(年齢・職種・労働時間によって調整)

e : $p < 0.05$ 単変量解析(Fisher の直接確率検定) ; 「正規職員」VS 「非正規職員」

f : $p < 0.05$ 多変量解析(ロジスティックモデル)in 雇用形態(年齢・職種・労働時間によって調整)

表 4 仕事の内容と抑うつ症状の関連 N(%)

質問項目	正規職員				非正規職員				有意差
	高うつ得点群 N=1708	低うつ得点群 N=2217	有意差	合計 N=3925	高うつ得点群 N=177	低うつ得点群 N=273	有意差	合計 N=450	
負担度									
c1.からだを動かす仕事である	829 (48.7)	1045 (47.3)		1874 (47.9)	116 (66.3)	169 (61.9)		285 (63.6)	e f
c2.仕事の量がとても多い	1272 (74.6)	1494 (67.6)	a b	2766 (70.7)	101 (57.7)	143 (52.8)		244 (54.7)	e f
c3.次の日まで疲れが残る	1305 (76.7)	1130 (51.4)	a b	2435 (62.4)	104 (60.1)	102 (37.6)	c d	206 (46.4)	e f
c4.勤務時間中はいつも仕事のことを考える	1333 (78.1)	1442 (65.2)	a b	2775 (70.8)	120 (69.8)	148 (54.4)	c	268 (60.4)	e
c5.ノルマや納期に追われる仕事が多い	1305 (76.8)	1472 (66.6)	a b	2777 (71.0)	88 (51.2)	114 (42.1)		202 (45.6)	e f
ワークライフバランス									
c6.仕事と仕事以外の生活をうまく両立させている	851 (50.0)	1811 (81.8)	a b	2662 (68.0)	99 (56.9)	241 (88.3)	c d	340 (76.1)	e
裁量度									
c7.仕事の方針を決め、意見を反映できる	822 (48.2)	1354 (61.3)	a b	2176 (55.6)	62 (35.6)	128 (47.2)	c	190 (42.7)	e f
c8.仕事の方針や目標ははっきりしている	1050 (61.8)	1701 (77.0)	a b	2751 (70.4)	114 (65.5)	218 (80.4)	c d	332 (74.6)	
c9.職場での伝統や習慣がかなり強制的	1044 (61.3)	1030 (46.6)	a b	2074 (53.0)	93 (53.4)	103 (37.7)	c d	196 (43.8)	e f
支援度									
c10.職場の人間関係は全体的に見て良い方	930 (54.7)	1713 (77.5)	a b	2643 (67.6)	108 (61.7)	208 (77.3)	c d	316 (71.2)	
c11.困ったときには上司が助けてくれる	834 (49.1)	1397 (63.3)	a b	2231 (57.1)	91 (52.0)	167 (62.1)	c	258 (58.1)	
c12.困ったときには同僚が助けてくれる	931 (54.7)	1524 (69.0)	a b	2455 (62.8)	102 (58.6)	185 (68.3)	c d	287 (64.5)	
c13.仕事の伝達、連絡、報告はよく行われている	968 (56.8)	1584 (71.7)	a b	2552 (65.2)	103 (59.5)	201 (74.4)	c	304 (68.6)	
c14.職場内で男女間に差別がある	787 (46.5)	771 (35.0)	a b	1558 (40.0)	50 (28.7)	67 (24.6)		117 (26.2)	e f
c15.職場内で私生活の話はあまりしない	921 (54.3)	919 (41.6)	a b	1840 (47.1)	107 (61.1)	143 (52.6)		250 (55.9)	e f
満足度									
c16.やりがいのある仕事である	895 (52.5)	1648 (74.5)	a b	2543 (64.9)	94 (54.0)	198 (72.8)	c	292 (65.5)	
c17.努力に見合った評価を受けている	655 (38.5)	1201 (54.4)	a b	1856 (47.5)	56 (32.0)	134 (49.4)	c	190 (42.6)	
c18.現在勤めている企業の将来は明るい	481 (28.3)	796 (36.1)	a b	1277 (32.7)	67 (39.0)	146 (53.9)	c	213 (48.1)	e f
c19.自分の仕事はおおいに社会に役立っている	1005 (59.0)	1675 (75.7)	a b	2680 (68.5)	113 (64.6)	211 (77.6)	c	324 (72.5)	
c20.現在の仕事は自分に適している	754 (44.6)	1572 (71.1)	a b	2326 (59.6)	89 (50.9)	203 (74.9)	c d	292 (65.5)	e
c21.現在の勤めをやめたいと思う	1173 (69.0)	918 (41.6)	a b	2091 (53.5)	104 (59.8)	80 (29.5)	c d	184 (41.3)	e

※CES-D 得点：15 点以下を抑うつ症状の「低うつ得点」群、16 点以上を「高うつ得点」群とした。

a：p<0.05 単変量解析(Fisher の直接確率検定)；「抑うつ低得点」VS「抑うつ高得点」in 正規職員

b：p<0.05 多変量解析(ロジスティックモデル)in 正規職員(年齢・職種・労働時間によって調整)

c：p<0.05 単変量解析(Fisher の直接確率検定)；「抑うつ低得点」VS「抑うつ高得点」in 非正規職員

d：p<0.05 多変量解析(ロジスティックモデル)in 非正規職員(年齢・職種・労働時間によって調整)

e：p<0.05 単変量解析(Fisher の直接確率検定)；「正規職員」VS「非正規職員」

f：p<0.05 多変量解析(ロジスティックモデル)in 雇用形態(年齢・職種・労働時間によって調整)

5. ストレス解消法と抑うつ症状

表 5 にストレス解消法と抑うつ症状との関連を示し

た。正規労働者において、低うつ得点群に比べ高うつ

得点群は「周囲の人に相談する」「スポーツ」「散歩や

表 5 ストレス解消法と抑うつ症状との関連 N(%)

質問項目	正規職員				非正規職員				有意差
	高うつ得点群 N=1708	低うつ得点群 N=2217	有意差	合計 N=3925	高うつ得点群 N=177	低うつ得点群 N=273	有意差	合計 N=450	
良好的									
d1.積極的に休暇をとる	200 (11.7)	275 (12.4)		475 (12.1)	22 (12.4)	44 (16.1)		66 (14.7)	
d2.周囲の人に相談する	300 (17.6)	537 (24.2)	a b	837 (21.3)	30 (16.9)	61 (22.3)		91 (20.2)	
d3.スポーツ	343 (20.1)	565 (25.5)	a b	908 (23.1)	25 (14.1)	56 (20.5)		81 (18.0)	e f
d4.散歩やハイキング	94 (5.5)	172 (7.8)	a	266 (6.8)	19 (10.7)	43 (15.8)		62 (13.8)	e f
d5.旅行	123 (7.2)	242 (10.9)	a b	365 (9.3)	18 (10.2)	36 (13.2)		54 (12.0)	
中間的									
d6.寝る	768 (45.0)	941 (42.4)		1709 (43.6)	67 (37.9)	97 (35.5)		164 (36.4)	e f
d7.動物 (ペット)	120 (7.0)	149 (6.7)		269 (6.9)	19 (9.6)	20 (7.3)		37 (8.2)	
d8.音楽 (カラオケを含む)	290 (17.0)	376 (17.0)		666 (17.0)	37 (20.9)	43 (15.8)		80 (17.8)	
d9.テレビやビデオ	435 (25.5)	592 (26.7)		1027 (26.2)	54 (30.5)	77 (28.2)		131 (29.1)	
d10.外出や買い物	407 (23.8)	583 (26.3)		990 (25.2)	45 (25.4)	54 (19.8)		99 (22.0)	
d11.好きなものを食べる	329 (19.3)	433 (19.5)		762 (19.4)	27 (15.3)	36 (13.2)		63 (14.0)	e f
問題的									
d12.インターネット	232 (13.6)	270 (12.2)		502 (12.8)	28 (15.8)	27 (9.9)		55 (12.2)	
d13.ギャンブルや勝負事	343 (20.1)	359 (16.2)	a b	702 (17.9)	39 (22.0)	40 (14.7)		79 (17.6)	
d14.知り合いにグチをこぼす	400 (23.4)	428 (19.3)	a	828 (21.1)	35 (19.8)	44 (16.1)		79 (17.6)	
d15.八つ当たりする	117 (6.9)	47 (2.1)	a b	164 (4.2)	10 (5.6)	3 (1.1)	c	13 (2.9)	
d16.アルコール飲料	631 (37.0)	763 (34.4)		1394 (35.5)	62 (35.0)	77 (28.2)		139 (30.9)	
d17.睡眠薬や精神安定剤	51 (3.0)	9 (0.4)	a b	60 (1.5)	6 (3.4)	1 (0.4)	c	7 (1.6)	
d18.ひたすら耐え続ける	424 (24.8)	242 (10.9)	a b	666 (17.0)	46 (26.0)	29 (10.6)	c d	75 (16.7)	

※CES-D 得点：15 点以下を抑うつ症状の「低うつ得点」群、16 点以上を「高うつ得点」群とした。

a：p<0.05 単変量解析(Fisher の直接確率検定)；「抑うつ低得点」VS「抑うつ高得点」in 正規職員

b：p<0.05 多変量解析(ロジスティックモデル)in 正規職員(年齢・職種・労働時間によって調整)

c：p<0.05 単変量解析(Fisher の直接確率検定)；「抑うつ低得点」VS「抑うつ高得点」in 非正規職員

d：p<0.05 多変量解析(ロジスティックモデル)in 非正規職員(年齢・職種・労働時間によって調整)

e：p<0.05 単変量解析(Fisher の直接確率検定)；「正規職員」VS「非正規職員」

f：p<0.05 多変量解析(ロジスティックモデル)in 雇用形態(年齢・職種・労働時間によって調整)

ハイキング」等の 4 項目の該当率が低かった。低うつ得点群に比べて高うつ得点群は「ギャンブルや勝負事」「知り合いにグチをこぼす」「八つ当たりする」等の 5 項目において該当率が高かった。多変量解析では、良好的なストレス解消法で 3 項目、問題的なストレス解消法で 4 項目が独立性の高い項目として検出された。

非正規労働者では、低うつ得点群に比べて高うつ得点群は「八つ当たりする」「睡眠薬や精神安定剤」「ひたすら耐え続ける」の 3 項目において該当率が高かった。多変量解析では、「ひたすら耐え続ける」の 1 項目が独立性の高い項目として検出された。

雇用形態別とストレス解消法との関連において、正規労働者に比べ非正規労働者は「散歩やハイキング」の 1 項目で該当率が高かった。正規労働者に比べて非正規労働者は、「スポーツ」「寝る」「好きなものを食べる」の 3 項目において該当率が低かった。多変量解析では、良好的ストレス解消法で 2 項目、中間的ストレス解消法で 2 項目が独立性の高い項目として検出された。

6. 内的統制と抑うつ症状

表 6 に抑うつ症状と内的統制の関連を示した。正規労働者の低うつ得点群に比べ高うつ得点群は 4 項目全ての該当率が低かった。多変量解析では、「努力すればりっぱな人間になれる」「一生懸命話せば誰にでも、わかってもらえる」「幸福になるか不幸になるかは自分の努力次第だ」の 3 項目が独立性の高い項目として検出された。

非正規労働者では、低うつ得点群に比べて高うつ得点群は「努力すればりっぱな人間になれる」「一生懸命話せば誰にでも、わかってもらえる」等の 3 項目において該当率が低かった。多変量解析では、「一生懸命話せば誰にでも、わかってもらえる」の 1 項目が独

立性の高い項目として検出された。

雇用形態と人間関係満足度との関連において、正規労働者に比べ非正規労働者は「努力すればりっぱな人間になれる」の 1 項目の該当率が低かった。多変量解析では、「努力すれば立派な人間になれる」の 1 項目が独立性の高い項目として検出された。

7-1. 正規労働者の最終変数選択モデル

表 7-1 に正規労働者の各領域で独立性の高い変数を説明変数としたモデルを構築し、最終の変数選択をした結果を示した。環境満足度の領域からは「健康状態」「仕事」「家庭」の 3 項目、人間関係満足度の領域からは「職場外友人」「家族・親戚」の 2 項目、仕事の内容の領域からは「仕事の量がとても多い」「次の日まで疲れが残る」「仕事と仕事以外の生活をうまく両立させている」等の 9 項目、ストレス解消法の領域からは「周囲の人に相談する」「旅行」「八つ当たりする」等の 5 項目、内的統制の領域からは「一生懸命話せば誰にでも、わかってもらえる」の 1 項目、計 20 項目が独立性の高い変数として検出された。

総じて、抑うつ傾向にある男性正規労働者は、環境や人間関係に満足しておらず、仕事の内容においては、負担度が高く、ワークライフバランスは取れておらず、裁量度は低く、支援度も低く、仕事の満足度も低く、ストレス解消法が悪く、内的統制が取れていないことが明らかになった。

7-2. 非正規労働者の最終変数選択モデル

表 7-2 に非正規労働者の各領域で独立性の高い変数を説明変数としたモデルを構築し、最終の変数選択をした結果を示した。環境満足度の領域からは「健康状態」「家庭」の 2 項目、仕事の内容の領域からは「次の日まで疲れが残る」「職場での伝統や習慣がかなり

表 6 内的統制と抑うつ症状との関連 N(%)

質問項目	正規職員			有意差	合計 N=3925	非正規職員			有意差
	高うつ得点群 N=1708	低うつ得点群 N=2217				高うつ得点群 N=177	低うつ得点群 N=273		
e1.努力すればりっぱな人間になれる	926 (54.3)	1539 (69.5)	a b		2465 (62.9)	76 (42.9)	166 (60.8)	c	
e2.一生懸命話せば誰にでも、わかってもらえる	637 (37.3)	1263 (57.1)	a b		1900 (48.5)	63 (35.8)	156 (57.1)	c d	
e3.努力すれば、どんなことでも自分でできる	604 (35.4)	1021 (46.2)	a		1625 (41.5)	62 (35.2)	121 (44.5)		
e4.幸福になるか不幸になるかは自分の努力次第だ	1185 (69.5)	1779 (80.4)	a b		2964 (75.6)	121 (69.5)	215 (78.8)	c	

※CES-D 得点：15 点以下を抑うつ症状の「低うつ得点」群、16 点以上を「高うつ得点」群とした。
a：p<0.05 単変量解析(Fisher の直接確率検定)；「抑うつ低得点」VS「抑うつ高得点」in 正規職員
b：p<0.05 多変量解析(ロジスティックモデル)in 正規職員(年齢・職種・労働時間によって調整)
c：p<0.05 単変量解析(Fisher の直接確率検定)；「抑うつ低得点」VS「抑うつ高得点」in 非正規職員
d：p<0.05 多変量解析(ロジスティックモデル)in 非正規職員(年齢・職種・労働時間によって調整)
e：p<0.05 単変量解析(Fisher の直接確率検定)；「正規職員」VS「非正規職員」
f：p<0.05 多変量解析(ロジスティックモデル)in 雇用形態(年齢・職種・労働時間によって調整)

表 7-1 最終変数選択モデル (正規労働者) N(%)

質問項目	reference	OR	95%CI
a1.健康状態	不満足 / 満足	1.59	(1.34-1.88)
a2.仕事	不満足 / 満足	1.42	(1.18-1.71)
a4.家庭	不満足 / 満足	1.45	(1.14-1.85)
b3.職場外友人	不満足 / 満足	1.38	(1.06-1.81)
b4.家族・親戚	不満足 / 満足	1.36	(1.02-1.83)
c2.仕事の量がとても多い	非該当 / 該当	1.26	(1.03-1.53)
c3.次の日まで疲れが残る	該当 / 非該当	2.00	(1.63-2.28)
c4.勤務時間中はいつも仕事のことを考える	該当 / 非該当	1.58	(1.31-1.92)
c6.仕事と仕事以外の生活をうまく両立させている	非該当 / 該当	2.15	(1.80-2.57)
c8.仕事の方針や目標ははっきりしている	非該当 / 該当	1.20	(1.00-1.46)
c9.職場での伝統や習慣がかなり強制的	該当 / 非該当	1.29	(1.09-1.51)
c10.職場の人間関係は全体的に見て良いほうだ	非該当 / 該当	1.54	(1.29-1.84)
c15.職場内で私生活の話はあまりしない	該当 / 非該当	1.29	(1.11-1.51)
c.18 現在勤めている企業の将来は明るい	非該当 / 該当	1.69	(1.40-2.04)
c19.自分の仕事はおおいに社会に役立っている	非該当 / 該当	1.33	(1.10-1.60)
c20.現在の仕事は自分に適していると思う	非該当 / 該当	1.33	(1.11-1.59)
c21.現在の勤めをやめたいと思うことがある	該当 / 非該当	1.66	(1.38-1.96)
d2.周囲の人に相談する	非該当 / 該当	1.33	(1.08-1.61)
d5.旅行	非該当 / 該当	1.35	(1.03-1.88)
d15.八つ当たりする	該当 / 非該当	3.11	(2.01-4.81)
d17.睡眠薬や精神安定剤	該当 / 非該当	4.38	(1.92-9.99)
d18.ひたすら耐え続ける	該当 / 非該当	1.60	(1.29-1.97)
e2.一生懸命話せば誰にでも、わかってもらえる	非該当 / 該当	1.37	(1.16-1.61)

p<0.05 多変量解析(ロジスティックモデル) in 正規労働者(年齢・職種・労働時間によって調整)

※低うつ得点群を 1、高うつ得点群を 2 とした。

CES-D 得点：15 点以下を抑うつ症状の「低うつ得点」群、16 点以上を「高うつ得点」群とした。

OR：オッズ比。各質問項目に該当しない群を 1 とした場合、該当する群における抑うつ症状（高うつ群）の相対出現率

a：環境満足度

b：人間関係満足度

c：仕事の内容

d：ストレス解消法

e：LOC の内的統制

強制的」「仕事と仕事以外の生活をうまく両立させている」等の 4 項目、内的統制の領域からは「一生懸命話せば誰にでも、わかってもらえる」の 1 項目、計 7 項目が独立性の高い変数として検出された。

総じて、抑うつ傾向にある男性非正規労働者は、環境に満足しておらず、仕事の内容においては、負担度が高く、ワークライフバランスが取れておらず、裁量度が低く、仕事の満足度が低く、内的統制が取れていないことが明らかになった。

7-3. 労働者の最終変数選択モデル

表 7-2 最終変数選択モデル（非正規労働者） N(%)

質問項目	reference	OR	95%CI
a1.健康状態	非該当 / 該当	1.91	(1.17-3.12)
a4.家庭	非該当 / 該当	2.20	(1.12-4.30)
c3.次の日まで疲れが残る	該当 / 非該当	1.66	(1.03-2.70)
c6.仕事と仕事以外の生活をうまく両立させている	非該当 / 該当	2.71	(1.52-4.81)
c9.職場での伝統や習慣がかなり強制的	該当 / 非該当	1.75	(1.08-2.77)
c.21 現在の勤めやめたいと思う	該当 / 非該当	2.12	(1.29-3.44)
e2.一生懸命話せば誰にでも、わかってもらえる	非該当 / 該当	1.86	(1.15-3.00)

p<0.05 多変量解析(ロジスティックモデル) in 非正規労働者(年齢・職種・労働時間によって調整)

※低うつ得点群を 1、高うつ得点群を 2 とした。

CES-D 得点：15 点以下を抑うつ症状の「低うつ得点」群、16 点以上を「高うつ得点」群とした。

OR：オッズ比。各質問項目に該当しない群を 1 とした場合、該当する群における抑うつ症状（高うつ群）の相対出現率

a：環境満足度

b：人間関係満足度

c：仕事の内容

d：ストレス解消法

表 7-3 最終変数選択モデル（労働者全体） N(%)

質問項目	正規職員	非正規職員
	N=3925	N=450
b1.上司に満足している	2311 (59.2)	304 (68.0)
c1.からだを動かす仕事である	1874 (47.9)	285 (63.6)
c2.仕事の量がとても多い	2766 (70.7)	244 (54.7)
c5.ノルマや納期に追われる仕事が多い	2777 (71.0)	202 (45.6)
c7.仕事の方針を決め、意見を反映できる	2176 (55.6)	190 (42.7)
c14.職場内で男女間に差別がある	1558 (40.0)	117 (26.2)
c15.職場内で私生活の話はあまりしない	1840 (47.1)	250 (55.9)
c18.現在勤めている企業の将来は明るい	1277 (32.7)	213 (48.1)
d4.散歩やハイキング	266 (6.8)	62 (13.8)

p<0.05：多変量解析(ロジスティックモデル) in 雇用形態(年齢・職種・労働時間によって調整)

b：人間関係満足度

c：仕事の内容

d：ストレス解消法

表 7-3 に労働者の各領域で独立性の高い変数を説明変数としたモデルを構築し、最終の変数選択をした結果を示した。人間関係満足度の領域からは「上司」の 1 項目、仕事の内容の領域からは「からだを動かす仕事である」「仕事の量がとても多い」「仕事の方針を決め、意見を反映できる」等の 7 項目、ストレス解消法の領域からは「散歩やハイキング」の 1 項目、計 9 項目が独立性の高い項目として検出された。

V 考 察

本研究では、男性労働者を対象に、雇用形態別に抑うつ症状とその関連要因について検討した。その結果、抑うつ状態にある者は、全体の 4 割で正規労働者・非正規労働者においても同様であった。抑うつ傾向にある男性正規労働者は、環境や人間関係に満足しておらず、負担度は高く、ワークライフバランスは取れてなく、裁量度は低く、支援度も低く、満足度も低く、ス

トレス解消法が悪く、内的統制が取れていないことが明らかになった。

また非正規労働者では、環境に満足しておらず、負担度が高く、ワークライフバランスが取れておらず、裁量度が低く、満足度が低く、内的統制が取れていないことが明らかになった。

抑うつ傾向にある男性労働者の割合が4割であったことは、平成18度に三宅ら³⁾が報告した結果と同様であった。

環境満足度、人間関係満足度に関しては、正規労働者・非正規労働者ともに上司の満足度が高い群に比べ低い群では、有意に抑うつの割合が高かったが、このことは小松ら⁸⁾の工場勤務労働者を対象とした先行研究結果と一致する。今回の調査では、友人、家族・親戚への満足度も抑うつと関連していることが認められ、周囲の人からのソーシャルサポートが重要であると推察する。

仕事の内容に関しては、負担度が高い者ほど高うつ群の割合が高かったが、このことは三木ら⁹⁾の看護師を対象にした研究結果と一致する。業種が限定されず、正規労働者・非正規労働者関係なく、同様の結果が得られたことは、負担の捉え方は労働者に共通する部分であることが考えられる。

裁量度、満足度が低い者は、高うつ得点群に多かった。このことは鈴木¹⁰⁾、岡田ら¹¹⁾先行研究結果と一致する。裁量度や満足度が低い者は、自分の仕事に対するモチベーションが持てず、またそれに対して本人が何も対策を打てない状況に置かれていることが推測される。

正規労働者・非正規労働者ともに「仕事と仕事以外の生活をうまく両立させている」ことは、抑うつ症状に対して抑制的に強く働いていることが認められた。上原ら⁴⁾が男性正規労働者を対象に行った結果が今回は非正規労働者にも認められた。近年不況の影響により、労働者の負担が増加している中で、職場改善を図るにあたっては、個人個人がワークライフバランスのとれた働き方が出来るように仕事の負担度の軽減なども踏まえた上で考えられていくことが求められていることが推測され、興味深い結果であった。

今回の調査では、対象人数が多く、有効回答率も高いことから良好な結果が得られたと考える。しかし、本研究は事業所を抽出する際に、系統無作為抽出法を用いたうえで、希望者を事業所に求めていることから、「希望者」という点にバイアスがあることが考えられ

る。また、横断研究のため、因果関係を言及するには至らず、あくまで相互関連を表すのみであることに留意しなければならない。今後は、横断研究と合わせて、追跡調査、症例対照研究、介入研究を行う必要がある。今後は、男性労働者だけではなく女性労働者にも焦点を置き、職種別に分けた抑うつ症状との関連要因について検討を行っていききたい。

本研究は、北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島産業保健推進センターの共同研究によるデータベースである。以下の方々が共同研究者である。中路重之、小野田敏行、菊池武尅、佐藤祥子、千葉健、伏見雅人、東谷慶昭、五十嵐敦（敬称略）。

参考文献

- 1) 自殺・うつ際策の経済的便益（自殺・うつによる社会的損失）の推計の概要. 厚生労働省. 2009.
- 2) 三宅浩次、西基、中路重之、小野田敏行、菊池武尅、佐藤祥子、千葉健、伏見雅人、東谷慶昭、五十嵐敦. 北海道・東北地方における事業所のメンタルヘルスの状況とその対策に関する研究. 北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島産業保健推進センター共同調査研究. 平成22年度調査研究報告書. 2011.
- 3) 三宅浩次. 北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形産業保健推進センター平成18年度産業医のメンタルヘルスとの関わりを中心とした調査研究. 2008
- 4) 上原尚紘、佐藤厳光、志渡晃一、西基、三宅浩次. 男性正規労働者の抑うつ症状とその関連要因—北海道と東北6県の事業場調査データベースによる検討—. 北海道公衆衛生学雑誌.
- 5) 矢野栄二. 労働形態多様化と労働者の健康. 労働科学研究所. 2008
- 6) 鎌原雅彦、樋口一辰、清水直治. Locus of Control 尺度の作成と、信頼性、妥当性の検討. 教育心理学研究. 30 (4) : 38-43. 1982
- 7) Lenore Sawyer Radloff. The CES-D Scale: A Self-Report Depression Scale for research in the general. Applied Psychological Measurement 1977; 1: 385-401.
- 8) 小松優紀、杉本正子、甲斐裕子、永松俊哉、須山靖男志、和忠志. 職業性ストレスと抑うつの関係における職場のソーシャルサポートの緩衝効果の

- 検討. 産業衛生学雑誌. 52 (3) : 140. 2010.
- 9) 三木朋子、梅地智恵、金崎悠. 看護師の職業性ストレスとメンタルヘルス・職業性ストレス簡易調査票を用いた検討. 日本看護学会論文集精神看護. 35 : 74-76. 2004.
- 10) 鈴木恭子. 職域におけるうつ傾向の要因について. お茶の水医学雑誌. 54 (2) : 71-77. 2006.
- 11) 岡田栄作、蒲原龍、花澤佳代、志渡晃一. PSW の抑うつ症状 (CES-D) とその関連要因・男女差の検討を中心に. 北海道医療大学看護福祉学部学会誌. 6 (1) : 93-96. 2010.
- 12) 大久保愉一、松坂方士、高橋一平、檀上和真、中路重之、梅田孝. 東北・北海道の労働者の抑うつ度に及ぼす社会労働環境因子の検討. 弘前医学. 61 (2) : 104-113. 2011.